

令和4年度

政務調査研究報告

飯田市議会公明党

報告者 小林真一

1

視察先・調査事項

1.「あなたが使える制度お知らせサービス」について

日時 令和4年12月19日14時00分～16時00分

場所 千葉県 千葉市

説明 業務改革推進課 上原 弘之 氏、高橋 大樹 氏

2.「不登校特例校の取り組み」について

日時 令和4年12月20日13時30分～15時30分

場所 東京都 八王子市

説明 高尾山学園 山田 和也 氏

八王子市教育委員会 長田 氏

2

「あなたが使える制度お知らせサービス」

～通称:ForYou 住民情報を活用したプッシュ型サービスの開始～



3



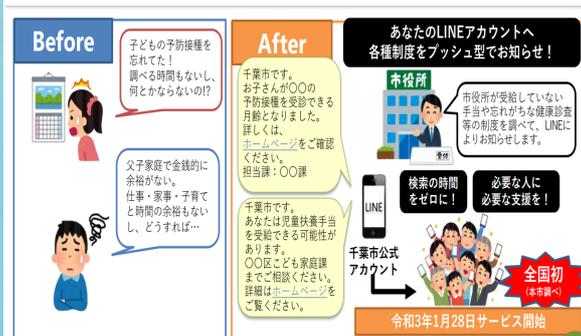
千葉県 千葉市の概要

- ・人口 約977,000人
- ・面積約272km²
- ・令和3年1月1日市制100周年
(大正10年1月1日市制施行)
- ・市木「ケヤキ」
市花「オオガハス」
- ・日本コンベンションセンター(幕張メッセ)、マリスタジアム等商業施設含め多数あり

4

★千葉市～

『あなたが使える制度お知らせサービス』の概要



◆各種手当や健康診査などの受給タイミングについて、市民自らが検索や問い合わせを行わずに済むよう、市が保有する住民情報を活用し、登録されたLINEアカウントに対して案内することで、受給漏れ防止を図る

◆世帯構成や税情報などを分析して各制度の受給対象となる市民を抽出し、LINEと連携して個別にメッセージを送信

◆対象制度は、健康診査・がん検診、予防接種、障害・難病児童支援、ひとり親家庭支援などを中心に26制度までに拡充できた

予算総額 約3,674万円
(令和2年～7年度見込み)

5

★市民へのプッシュ型通知の必要性～支援サービス等における課題

○市役所では、各種サービス等を提供している一方、申請が前提となっている

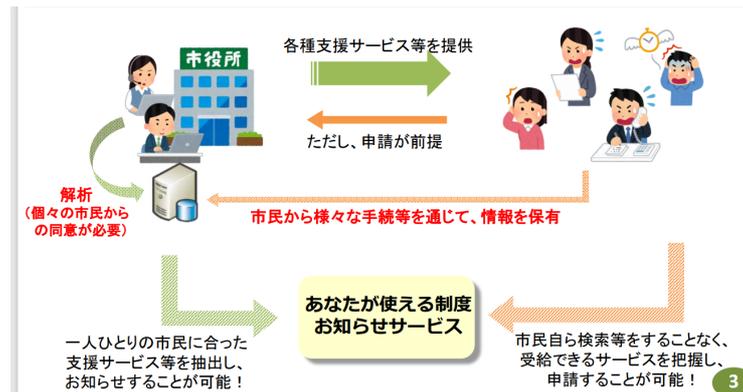
○市民へ情報発信はするものの、そういったサービスが必要な人ほど調べる時間がなく、当該サービスをうけることが出来ない、受給漏れとなっているのが実態



6

★市民へのプッシュ型通知による解決～課題解決に向けた考え方

- 市役所では、市民から様々な手続き等を通じて、住民情報を預かっている
- 個々の市民からの同意を得て、これらの情報を解析することにより、一人ひとりの市民に合った情報提供が可能。その結果、市民自らが検索や問合せをしなくても、受給できるサービスを把握し、申請することが可能となる

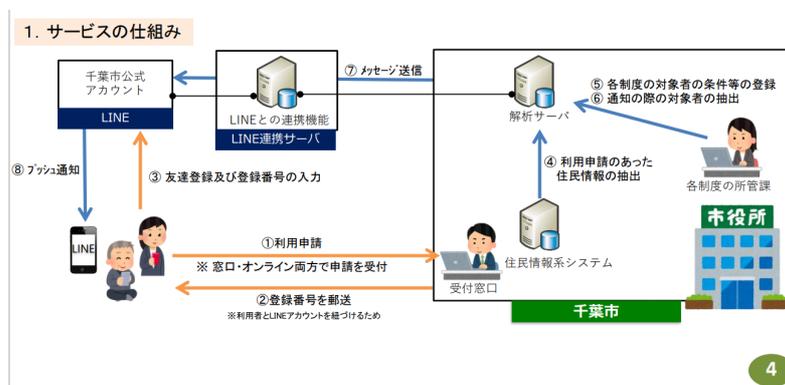


7

★市民へのプッシュ型通知の仕組み

～「あなたが使える制度お知らせサービス 通称:ForYou」～

- 市民は、本サービスの利用申請を行うとともに、LINEで千葉市公式アカウントを友達登録する
- 市役所では、利用申請があった市民の住民情報を抽出し、各制度の対象となる条件等を登録
- 通知を行う際は、利用者の中から対象者を抽出、メッセージを送信し、LINEを通じて、利用者へプッシュ通知する



4

8

【参考】関連法令（税情報に関する守秘義務）

○地方公務員法及び千葉市個人情報保護条例については、利用者から同意を取る

●地方税法（昭和25年法律第226号）

（秘密漏えいに関する罪）

第二十二條 地方税に関する調査（不服申立てに係る事件の審理のための調査及び地方税の犯則事件の調査を含む。）若しくは租税条約等の実施に伴う所得税法、法人税法及び地方税法の特例等に関する法律の規定に基づいて行つた情報の提供のための調査に関する事務又は地方税の徴収に関する事務に従事している者又は従事していた者は、これらの事務に関して知り得た秘密を漏らし、又は窃用した場合には、二年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する

●地方公務員法（昭和25年法律第261号）

（秘密を守る義務）

第三十四條 職員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。
2 法令による証人、鑑定人等となり、職務上の秘密に属する事項を發表する場合においては、任命権者（退職者については、その退職した職又はこれに相当する職に係る任命権者）の許可を受けなければならない。
3 前項の許可は、法律に特別の定がある場合を除く外、拒むことができない。

●千葉市個人情報保護条例（平成17年千葉市条例第5号）

（個人情報の利用及び提供の制限）

第8條 実施機関は、個人情報を取り扱う事務の目的以外の目的のために個人情報（特定個人情報を除く。以下この条において同じ。）を当該実施機関の内部で利用し、又は個人情報を当該実施機関以外のものに提供してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

(1)～(3) (略)

(4) 当該実施機関の内部で利用し、又は他の実施機関に提供する場合であつて、当該個人情報を使用することと相当の理由があると認められるとき。

(5)・(6) (略)

2 (略)

【参考】対象制度とする制度（抜粋）

No.	制度名	制度概要
1	乳児一般健康診査	乳児の病気の予防、早期発見や健康保持・増進を目的とした健康診査を実施します。
2	特定健康診査	40歳以上74歳までの国民健康保険被保険者を対象に、生活習慣病を予防するために特定健康診査を実施します。
3	健康診査	後期高齢者医療制度に加入している方を対象に、高齢者の特性から、生活習慣病予防及び介護予防のために、健康診査を実施します。
4	一日人間ドック費用助成	35歳以上の国民健康保険被保険者及び後期高齢者医療被保険者を対象に、生活習慣病等の早期発見、早期治療を通じて健康の保持増進を図るため、人間ドック健診費用の一部を助成します。
5	脳ドック費用助成	40歳以上5歳ごとの年齢の国民健康保険被保険者及び後期高齢者医療被保険者を対象に、脳血管疾患の早期発見のために、脳ドック健診費用の一部を助成します。
6	肺がん、大腸がん検診	40歳以上の方を対象に、肺がん・大腸がんの早期発見、早期治療を図るため、検診を実施し、費用の一部を助成します。
7	前立腺がん検診	50歳以上5歳ごとの男性を対象に、前立腺がんの早期発見、早期治療を図るため、検診を実施し、費用の一部を助成します。
8	骨粗しょう症検診	40・45・50・55・60・65・70歳の女性を対象に、骨粗しょう症の早期発見、早期治療を図るため、検診を実施し、費用の一部を助成します。
9	歯周病検診	40・45・50・55・60・65・70歳を対象に、歯周病の早期発見、早期治療を図るため、検診を実施し、費用の一部を助成します。
10	胃がんリスク検査（ピロリ菌検査）	20～39歳で過去に未受診の方を対象に、将来胃がんを発生するリスクの検査を実施し、費用の一部を助成します。
11	水痘（水ぼうそう）	水痘（水ぼうそう）の感染や重症化を防ぐための予防接種で、1歳から2歳の間に2回接種します。
12	麻疹・風しん	麻疹（はしか）と風しんの感染や重症化を防ぐための予防接種で、1歳の間と小学校入学前年度にそれぞれ1回接種します。
13	二種混合（ジフテリア・破傷風）	ジフテリアと破傷風の感染や重症化を防ぐための予防接種で、11歳から12歳の間に1回接種します。
14	高齢者肺炎球菌予防接種	肺炎球菌による肺炎の重症化を防ぐための予防接種で、過去に1度でも接種を受けたことがある方は対象外となります。

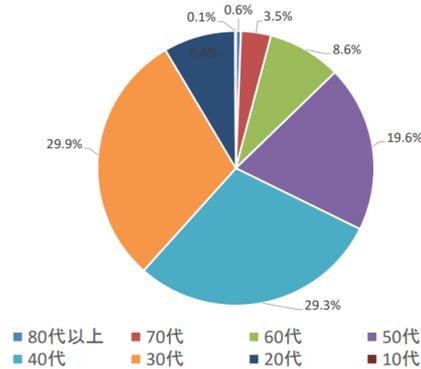
【参考】申請者数及び年代別利用者割合

申請者数

➢ 申請者数: 9,902人(令和4年12月13日時点)

年代別利用者割合

年代	利用者割合
80代以上	0.6%
70代	3.5%
60代	8.6%
50代	19.6%
40代	29.3%
30代	29.9%
20代	8.4%
10代	0.1%
計	100.0%



11

11

千葉市 視察 まとめ



・これまでの、申請を前提とした市民サービスのあり方を見直し、検討を重ね、実行へ移した取り組みが、市民に寄り添った内容であり、分かり易い。

・制度内容も随時更新を重ね、26項目までに至っている。

・一般的に馴染み易く、使い勝手が良い「LINE」へ目を付けた視点も市民へその手軽さを発信する基になっている。

・利用状況は、若年層、中間層、高齢者層と年代により利用できるサービス内容も異なり、一様に評価は難しいところである。が、そのバラツキを課題と捉え更なる利用可能な制度増をめざすとの取り組み状況を伺い、感銘した。

・飯田市へも反映できないかと、市民目線の検討を進めたい。

12

「不登校特例校の取り組み」について ～八王子市立高尾山学園の取組み～



13

東京都 八王子市の概要



人口: 562,469人

世帯数: 278,100 世帯

(令和4年4月30日現在)

面積: 186.38km²

市木 「イチヨウ」

市花 「ヤマユリ」

東京都心から西へ約40km、大正6年の市制施行から105年を迎え、21の大学を抱えた学園都市

14

★高尾山学園設立の経緯とさらなる充実へ向けた取組み

●設立趣旨

- 心理的、情緒的、ないしは何らかの社会的要因や背景により、登校しないまたは登校したくてもできない児童・生徒のための公立学校
- 状況に応じて一人ひとりの心の安定を図り、適切な学習支援と集団生活の中で、人間関係をより良く保つ力を養う
- 生きることへの自信(基礎学力と社会性)の獲得

まずは家から出る→次に人との関わり→そして学力へ

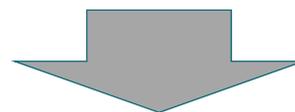
15

●不登校特例校

- ・時数軽減 & 柔軟な教育課程が
つくれる
一般的な学校では1,000h/年間学習時間があるが、ここでは720h程度でよい
- ・正規教員を採用、配置
- ・予算配当の確保
- ・学校施設として廃校校舎を利用
(学校型・分校型・分教室型がある)

高尾山学園

- ・全国に21校
- ・東京都は八王子市、調布市、福生市、大田区、世田谷区と私立2校



- ・協力者会議の提言は
→設置増か

16

●不登校とは

- 心理的、情緒的、ないしは何らかの社会的要因や背景により、登校しないまたは登校したくてもできない児童・生徒で、病欠など以外で年間欠席日数が30日を超える場合をいう

様々な傷つき体験・教師不信

友達がいない・学習に向かない

児童生徒と保護者が抱える3つの不安

対人不安・学力不安・将来不安

17

●高尾山学園へ通う児童・生徒像

1. 学校で生きづらい ➡ **社会性・学力不安がある**
様々な対人不安があるため(友人・教員・集団など)
学習不安 偏差値の高い低い両極端の子ども
2. 生活環境や家庭内環境 ➡ **福祉的支援が必要**
保護者力・養育力が必要な家庭のため
親子&兄弟関係に課題、家庭内不和、生活が不安定、ゲーム・ネット依存、昼夜逆転
3. 本人の抱える課題 ➡ **医療的な支援が必要**
学習や運動の苦手さは未学習からなのか
情緒的不安、朝が弱い、境界領域を持つ、強いこだわりがある

18

●登校への支援策

様々な登校へ向けた刺激

楽しい・嬉しい・美味しい
+ 安心感と知的好奇心を刺激する

- ・授業中の居場所あり
(保健室・プレイルーム・相談室)
- ・わかる楽しさ/知的好奇心/ICT
(全員へタブレット、全教室へTV設置し動画環境確保)
- ・様々な体験活動
(郊外遠足、サップ、カヤック他 おもしろいを植付け)
- ・充実した支援体制
(補助員他 スクールカウンセラー常設)

19

●登校を安定させるには

自己肯定感の醸成

- ・自分を否定する子どもが多いため、

『わかった・できた・褒められた・協力しあえた』という

成長を実感できる様々な仕掛け/仕組みづくりを進めている

学習

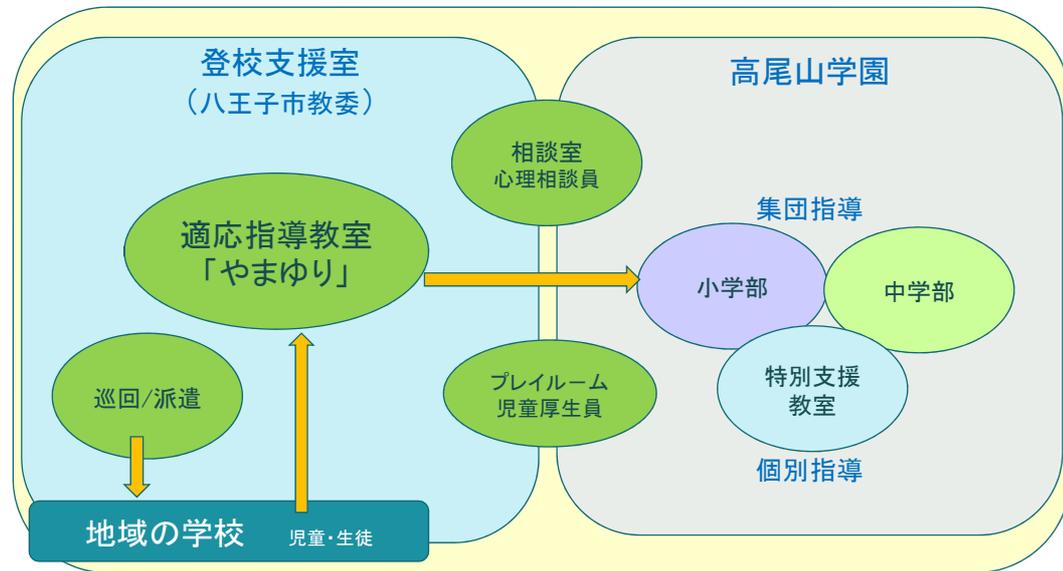
体験

行事

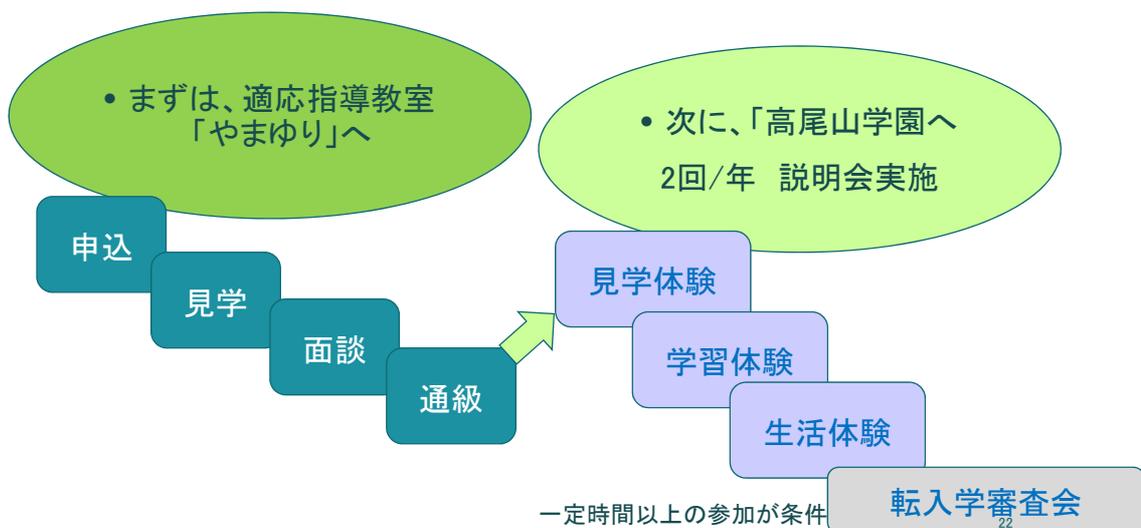
家庭

20

●高尾山学園の体制(1つの校舎へ2つの組織)



●転入までの流れ “よりスムーズな転入 ➡ 毎月(随時)転入”



●18年間の活動を通して

児童・生徒の変容

- ・ほとんどの児童生徒が元気に(登校率は平均で70%)
- ・信頼できる友人や大人を獲得し学習に取り組む姿
(全欠の子どもも通うようになる)
- ・自分に自信 → 高校・大学へ進学しリーダーになる子ども

成功へのキーは

- ・少人数+教職員数(教師・補助員・心理士・SSW・厚生員ほか)
- ・授業中の居場所 時間軽減 強制はしない(自分のペースで)
- ・適応指導教室経由の転入 校内特別支援教室の併設

23

●高尾山学園運営上の課題

児童生徒の変化

- ・不登校児童生徒の急増
- ・家庭などの様々な格差
- ・個性の多様化

社会の変化

- ・ネット社会
- ・フリースクール増加
- ・居場所の多様化

課題

- ・不登校特例校向けの人事制度
- ・多くの大人が関わるための人件費
- ・教育と福祉と医療の連携の為の体制&予算
- ・人材発掘と育成の仕組み
- ・増え続ける児童生徒数の受入れ上限

24

八王子市立高尾山学園 視察 まとめ



*掲載について、山田副校長よりご許可を頂きました

・不登校特例校とはどういう学校なのか、これまでの机上認識を改める機会となった。

・教育の現場で培った知見を覆す柔軟な取り組みと伺い、子どもたちをいかに受け入れるか、いかに楽しませるか、再考を迫られる現実が日々繰り返されていることに、驚愕した。

・子どもは社会で育てるという取り組みの最前線がそこにはあった。また、社会変動に今後どう向き合い、柔軟に対応すれば良いのか、意識改革を迫られた気がした。

・「諦めない現場」を多くの大人たちが真剣に運営し、進学率95%を支えている。そこには、家庭、地域、学校が連携して成果を出している。予算確保という前提も現実である。

25

ご清聴ありがとうございました



26